



秋田大学教育文化学部附属小学校 校報

はとの子だより

No.2 令和6年4月15日(月)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

桜のつぼみが色づいて



8日(月)にはとの子150期生が入学してきました。やや緊張した面持ちで、それでも軽やかに跳ねながら、学校の感触を楽しんでいるようでした。

一つ上の先輩たちに手を引かれ、式場に入場してくると、ひんやりとした式場内がポツと温かくなったように感じました。

式典では、2年生の児童代表として、鈴木杏奈さんが歓迎の挨拶をしました。杏奈さんの次の言葉は、この学校の特徴をよく言い表しています。

「学校は、たのしくて、ワクワク、ドキドキがたくさんあるところ
です。」

式典では神妙な様子の子どもたちでしたが、2年生と6年生のア
トラクションが始まると、ホッとしたような表情に変わりました。

この学校で1年間学ぶとこんな姿になる、というモデルが2年
生。6年間学ぶとこんな姿になる、というモデルが6年生です。す
ぐ近くの未来と、ちょっと先の未来を、新入生とその保護者の方々
に見ていただきました。

色づき始めた窓外の桜のつぼみを見ながら、「この新入生は卒業する頃、どんな姿にな
っているだろう」と、早くもちょっと先の未来を想像しました。入学式の凜とした姿か
ら、パッと満開に咲いた花のような6年後を思い描かざるを得ませんでした。



入学式 校長式辞



モトーンの冬が過ぎ、暖かな陽の光に、春ならではの色彩が増し、生命の息吹がそこかしこに感じられます。新たな始まりの季節の到来です。

明治七年に開校した本校は、今年度創立 150 周年を迎えます。その節目の年度初めの今日、四月八日に、秋田大学教育文化学部附属小学校に入学する新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。

また、秋田大学教育文化学部長・大橋純一様おおはしじゅんいちをはじめとします、ご来賓の皆様、本日はお忙しいところを、本校の入学式にご臨席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、新入生の皆さん、附属小学校のよいところを三つお話します。

一つ目は、「チャレンジ」。挑戦することを楽しめる学校です。みなさんひとりひとりが、できるようになりたいことを、やってみて、考えて、工夫して、失敗してもあきらめないでチャレンジできる学校です。今年は夏にオリンピックがありますね。オリンピック選手のように、挑戦できる学校です。思い切りチャレンジしましょう！

二つ目は、「ハーモニー」。さっき、学校の歌、校歌を聞きました。一人一人の声は違っても、美しい「ひとつの歌声、ハーモニー」になっていましたね。違うけどばらばらじゃない、ハーモニーが生まれる学校、ひとりひとりが楽しく頑張る仲良しの学校です。きょうからみなさんもハーモニーの仲間入りです。

三つめは、「温かい」学校です。春、太陽に温められた土は柔らかくなります。みなさんも後で土に触ってみてくださいね。温かいと、のびのびできます。学校が楽しくなり、わくわくします。楽しいから、きびきび動けます。先生たち、お兄さん、お姉さんたち、みんなとても温かいです。明日からみなさんが学校に来るのを楽しみに待っています。首がきりんさんになってしまいそうなくらいです。

さて、保護者の皆様、本校の教職員は、学校教育目標「のびのび、きびきび、わくわく、自律」という共通理念の下、熱意と誇りをもって日々努力するチームです。ヨーロッパでは古くから、「幼いうちは根っこを与えよ、大きくなったら翼を与えよ」ということばがあります。根っこと翼の両方を与えられるよう、どうぞ私ども教職員と手を携えて、これからの6年間を歩んでくださいますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

子どもたちの健やかでたくましい成長を願い、式辞といたします。

令和六年四月八日

秋田大学教育文化学部附属小学校 校長 佐々木 雅子

150年目の新たな出発



爽やかな朝の空気に包まれて、黄色い帽子がピョコピョコと校門をくぐり抜けてきます。

桜のつぼみのピンクと、新入生の黄色い帽子の組み合わせが春らしくて明るい気持ちになりました。

窓から誰かが手を振ったのでしょうか。校門をくぐり抜けたところで1年生の教室に向かって手を振り返し、それから昇降口に向かって駆け出しました。

入学式の翌朝から、1年生の教室には6年生が待ち構えています。

鞆をどこに入れるか、引き出しの中には何を入れるかなど、たくさんの約束事があります。それを6年生が手伝ってあげる仕事は、ずっと昔から続いてきた慣習です。

「寂しくなった」と泣いて担任の先生に慰められている新入生もいました。さすがの6年生も、そのような事態の收拾には慣れていないらしく、心配そうに横目でその様子を眺めながら、困っている1年生がいないか探していました。

気が付いたら、1年生に兄弟姉妹がいる3・4年生や、自分が入学した頃のことを思い出して後輩の手伝いをしようと1年教室にやってきた2年生など、様々な学年の子どもたちで賑わっていました。



5年生では、道徳の授業で、教材文の登場人物になりきった子が、クラスメートからのインタビューに答えていました。登場人物が女の子だったので、演じる男の子が女の子っぽい言葉遣いで質問に答えるたびに笑いが起きました。

でも不思議と悪ふざけには発展しません。笑いながらも、自分が登場人物だったら質問にどんな答えを返すのか、即興的な役割演技の中でグルグルと思考を巡らせているからです。質問する側の子どもたちも、その答えが登場人物らしい答えなのかどう

か、よく吟味しています。登場人物役が代わるたびに、相反する2種類以上の答えが黒板に並び始めました。「一体、どれが相応しい考えなんだろう？」と自問する表情の子どもたちが、次第に増えていきます。笑いの中にも、じっくりと考える思慮深い高学年の顔が、そこにはありました。

150年目の春が、躍動感たっぷりに動き始めました。

ご挨拶 ～4月に赴任した教職員から～

校長 佐々木 雅子 先生

(秋田大学より)

附属小学校は、伝統を礎に創造発展し続けてきました。児童も教職員も、ひとりひとりが生き生きとし、自己の成長を感じられる学校であり続けるため、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

事務室長 戸島 隆造 さん

(秋田大学より)

毎日子供たちの明るい声が聞こえてきて心も弾んできます。「学校に行くのが楽しい」と思ってもらえるよう、学習及び校内の環境整備などに取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

教頭 保坂 茂 先生

(男鹿市立脇本第一小学校より)

15年ぶりに戻ってきました。小さな田んぼや木々の様子、そして、子どもたちの笑顔と明るく飛び交う声は全く変わっていません。そんな子どもたちをしっかりと支えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2年A組 大森 果歩 先生

(鹿角市立大湯小学校より)

附属小学校のみなさんの素直で元気の発言やあたたかい雰囲気之感銘を受けました。これから勉強や様々な活動を一緒にがんばれることが本当に楽しみです。よろしくお願いいたします。

1年A組 工藤 優花 先生

(秋田市立飯島小学校より)

みなさんのすてきな歌声に迎えられ、附属小学校での生活がより楽しみになりました。子どもたちが楽しく学校生活を送ることができるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

3年A組 佐々木 駿斗 先生

(男鹿市立船川第一小学校より)

明るく元気な「はどの子」のみなさんとの出会いを楽しみにしてきました。子どもたちと一緒に様々なことにチャレンジしながら、自分自身も大きく成長していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2年所属 長谷川 裕子 先生

採用

キラキラ輝く瞳と優しい歌声の子どもたちとの出会いにとってもワクワクしています。子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができるよう支援していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2年所属 谷地 るり子 先生

採用

新しい出会いに胸がわくわくします。150周年の記念の年、子どもたちの楽しい思い出づくりや安心できる毎日の生活を精一杯サポートしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

1年所属 今井 佐都香 先生

採用

附属小学校のみなさんとの新しい出会いを楽しみにしていました。子どもたちが楽しく、安全に学校生活を送ることができるようにサポートしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3年所属 大谷 陽子 先生

採用

新任式で、子どもたちのまっすぐなまなざし、聞いたことに対する反応のよさ、歌声の美しさに感激しました。一人一人が自分を発揮し、充実した学校生活を過ごせるよう、サポートしていきたいと思っております。